

赤穂下水管理センター消化ガス発電事業に関する基本協定の締結について

2022年11月14日
大阪ガス株式会社
Daigas エナジー株式会社

大阪ガス株式会社（社長：藤原正隆、本社：大阪府中央区）の100%子会社のDaigas エナジー株式会社（社長：井上雅之、本社：大阪府中央区、以下「Daigas エナジー」）は、赤穂市上下水道事業（以下「赤穂市」）と、「赤穂下水管理センター消化ガス発電事業」（以下「本事業」）に関する基本協定を締結しました。今後、再生可能エネルギー固定価格買取制度（以下「FIT 制度」）による事業計画認定を取得した後、2023年3月末を目途に赤穂市と発電事業契約を締結し、2024年4月から発電事業を開始する予定です。

本事業は、民間の資金とノウハウを活用した民設民営方式による下水処理場での消化ガス^{※1}発電事業であり、Daigas エナジーが赤穂市から借り受けた下水管理センター内の事業用地に発電設備を建設します。同センターで発生する消化ガスのうち余剰の消化ガスを活用してバイオマス発電を行い、FIT 制度を利用して20年間の発電事業を行います。

本事業にあわせ、バイオガスで発生させた蒸気を活用する消化ガス増加技術の実証実験についても検討し、消化ガスの発生量増加による発電量の増加と更なる汚泥廃棄量の削減を目指します。

Daigas エナジーは、「D-Lineup」^{※2}を中心に、エネルギー会社の強みを活かした低・脱炭素ソリューションを提供しています。その中の「D-Bio」シリーズは、消化ガスなどのバイオマスの有効利用サービスによりCO₂排出量および廃棄物の削減に貢献します。

Daigas グループは、様々なステークホルダーとともに社会課題の解決に資する価値「ミライ価値」を創造し、「時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニー」への進化と、持続可能な社会の実現への貢献を目指してまいります。

※1：下水汚泥処理の過程で発生する消化ガスは、メタンを主成分とする可燃性ガスであり、都市ガスの半分ほどの熱量を持つバイオガスです。再生可能エネルギーの中でも下水由来の安定的な都市資源であり、地球温暖化対策のひとつとして有効利用が期待されています。

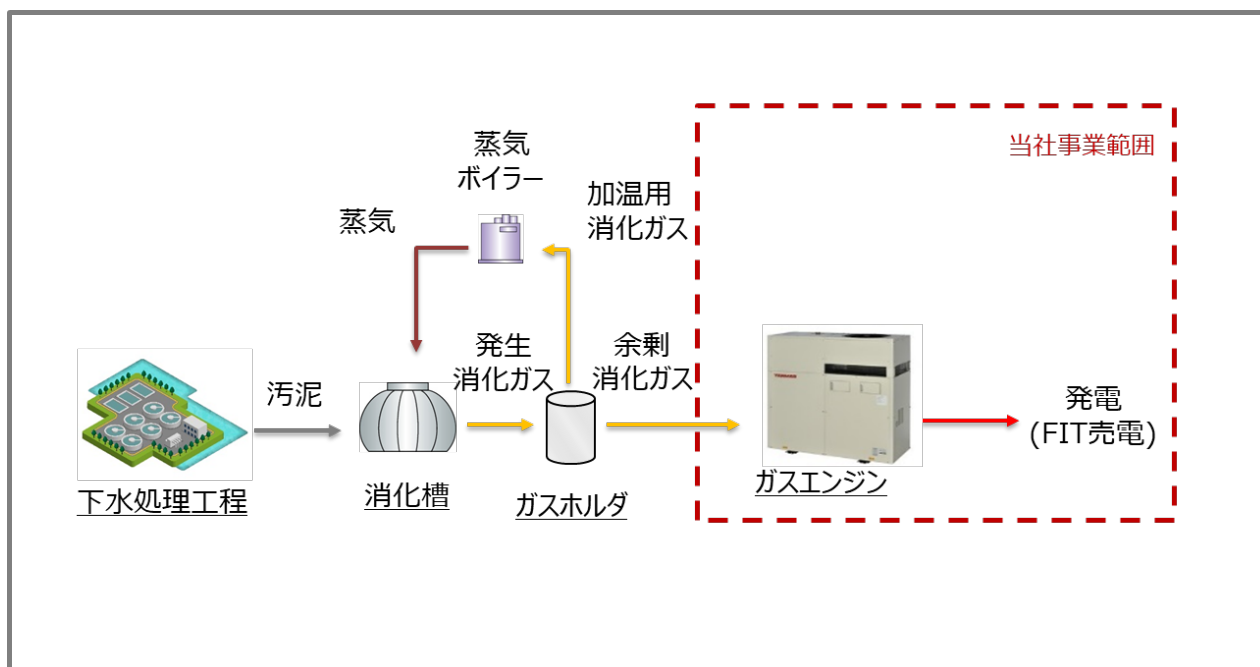
※2：企業の様々な経営課題に対し、Daigas グループが手掛ける広範囲な事業の経験や知見を活かし、安心安全なエネルギーと幅広いニーズにお応えするソリューションです。「D-Lineup」の詳細は、以下 URL からご確認ください。

<https://ene.osakagas.co.jp/product/dlineup.html>

<赤穂下水管理センター消化ガス発電事業の概要>

事業名	赤穂下水管理センター消化ガス発電事業
運営方式	民設民営方式
事業場所	兵庫県赤穂市中広 1862 番地（赤穂下水管理センター内）
発電設備	消化ガスエンジン 24.5kW×2 台、発電容量 49kW
年間発電量（想定）	約 34 万 kWh／年（一般家庭約 80 世帯相当）
発電事業期間	2024 年 4 月 1 日から 2044 年 3 月 31 日までの 20 年間 （発電事業開始日は計画段階のもので変更になる場合あり）

<当社事業範囲イメージ>



以上